

令和8年7月27日(月)
しなやかに生きる子ども



5学年 家庭科
「着方の工夫で快適に」

「自分だったらどんな服を着るのかな？」

家庭科では、無自覚だった生活行動に根拠をもち、自分にとってのよりよい生活を見付けようとする姿を目指します。題材「着方の工夫で快適に」では、衣服に使われる布の性質について調べ、その特徴を踏まえて、自分だったらどんな服を着るのかを考えました。普段何気なく選んでいる服について、「触り心地」「伸びやすさ」「保温性」「水の吸いやすさ」「風の通しやすさ」の5項目について、布の性質実験を行い、今後の生活において根拠をもって衣服を選べるように学習を進めました。一人一人の感じ方や生活経験の違いなど、他者の価値観に触れることで、自分の考えを深めたり、広げたりしながら、自分にとってどんな服や着方が快適なのかを考えることができていました。

私たちは、自分の意思をもって粘り強く学ぶ力強さと仲間の考えを受け入れながら学んでいく柔軟さを兼ね備えた「しなやかに生きる子ども」を育みます。そのために、他者とながかり合い、“楽しい”を見いだす学びを大切にしていきます。多様な個を認め、高め合いながら学べるように「教材化」「教師の立ち位置」の二つの視点から、子ども一人一人を大切にしたい授業の在り方を探っていきます。

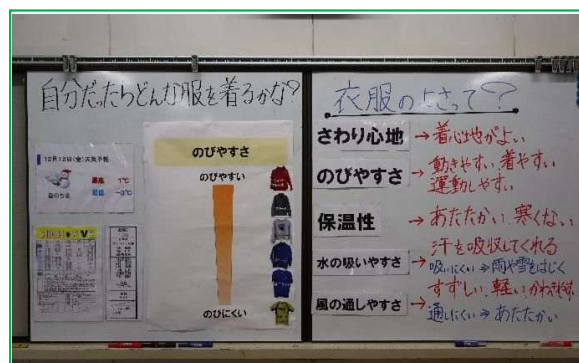
視点1

多様な個が生きる教材化

本題材では、自分なりの快適な「着方」を考えることができるように、生活と直結した実践的な学びを目指し、二つの教材化を考えました。

一つ目は、子どもたちがよく目にする天気予報や時間割を提示しました。天気や気温、その日の学習を見て、「自分だったらどんな服を着るのか。」内容をテーマとすることで、題材を通して、自分にとってどんな衣服が快適であるのかを考えることができました。

二つ目は、普段よく着ている衣服について事前アンケートを行い、その結果を基に「ウィンドブレーカー」「フリース」「トレーナー」「ジャージ」「綿Tシャツ」「スポーツTシャツ」の6種類の衣服を用いて実験を行いました。普段子どもたちがよく着る衣服を扱うことで、何気なく選んでいた衣服の特徴や性質に関心をもって実験を行うことができ、根拠をもって衣服を選択することができました。



多様な個が生きる教師の立ち位置

視点2



布の性質実験を通して、子どもから出る多様な気づきを引き出し、他者とのつながりが生まれるようしました。

実験を進める中で、子ども一人一人の感じ方や気づきに対して、共感したり、疑問を投げかけたりすることで、子ども同士を他者となげ、自分の考えをより深めたり、広げたりすることができました。「スポーツTシャツは思ったより水を吸わなかった。」「フリースって意外と水を吸ったね。」などの子どもから出た気づきをつなげることで、子ども一人一人の感じ方の違いや気づきに着目できるようになりました。

普段何気なく選んでいる衣服には、それぞれに性質があることに気付けるように、メーターを使い、6種類の衣服の性質を比べ、衣服を重ねることで補える性質があることを確認しました。全体交流では、子どもと一緒に結果を整理したり、まとめたりすることで、衣服を選択する際の根拠や理由をもつことができました。

家庭科 6年「共に生きる地域での生活」より

視点1

多様な個が生きる教材化

本題材では、自分たちが住んでいる地域の実態を知り、それらを自分事として捉えられるように、これまでの無自覚に行っていた生活の営みに目を向けました。題材の導入では、地域の人から直接、地域のよさや困り、協力してほしいことを聞くことで、課題意識を生み、地域の人々との関わりを必要なものとして捉えることができるようにしました。また、題材を通して、町内会のエリアマップを用いることで、子ども一人一人が「地域＝自分が暮らす生活の場」として捉えることができました。

題材の中で、実践的な学びを実現するために、「実践ウィーク」を設定し、一人一人が自分のペースで地域と関わる時間を確保しました。実践を振り返り、「安全・安心」「住みやすい」「明るく・元気」の視点に加え、持続可能かどうかという見方をするすることで、同じ実践でも捉え方が異なることを実感し、多様な価値観が表れました。



多様な個が生きる教師の立ち位置

視点2



教師は、子どもが行った実践を通して得られる多様な気づきや発見に寄り添い、他者とつなげる立ち位置をとりました。本時では、「安全・安心」「住みやすい」「明るく・元気」という3つの異なる視点をもつ子ども同士で交流する場面で、「この実践なら自分もできそうと思うものはある？」と問うことで、自分が行った実践以外にも、地域との関わりについて考えを深めたり、話し合いによって考えを広げたりすることができました。

題材を通して、地域をよりよくするために実践したことや、その振り返りをICTに蓄積できるようにしました。全体交流では、オクリンクの画面をテレビに映すことで、個の考えを共有できました。黒板では、3つの視点ごとに整理していくことで、他者の考えに触れ、そこで得た気づきを基に、地域とよりよく関わっていくための考えを深めました。